







## 平成28年度行われた出前授業

学校名	日付	対象	講師	テーマやねらい	コメント
中央区立泰明小学校	2016年9月10日（土）	3年生2クラス48名/1年生2クラス57名（学年毎）と保護者	鈴木信行（患医ねっと代表 当法人正会員）	「いのちとこころの授業 - みんなと違っていい みんなと違うからいい」  いのちの大切さを認識する、自分を大切にすると周りの人への思いやり、親や周りの人々に愛されている⇒自己肯定感 障がい者への理解	<p>小学1年生と3年生に体当たりの授業でした。鈴木さんの小学校の頃の友達とのエピソードなどを交えて、とてもわかりやすい内容でした。みんなと違う所があってもそれは個性、みんなが違うからいいんだよというメッセージは子ども達にも伝わったようです。（久保園）</p>  
中央区立京橋築地小学校	2017年2月1日（水）	5年児童・教職員・保護者・学校医・学校薬剤師 約100名	小泉周（自然科学研究機構 特任教授）	「心と心をつなぐ脳の仕事」 学校保健委員会 命と心の授業 ・命の大切さや人との絆、思いやり、感動する心を育て深刻ないじめ問題等を未然に防止する。 ・生涯を通じて健康な生活を送るために、健康の大切さを理解する。	<p>脳に関するクイズや錯視の事例のお話で、子どもたちは脳や視覚の不思議を体感することができました。また、脳のミラーニューロンや顔ニューロンが言葉を超えた人とのつながりをもたらすこと、勉強には睡眠が大事なことも説明があり、教員や保護者の方にも役立つ授業になったことと思います。（小島）</p>   

## 平成28年度行われた医療を考える会

日付	スピーカー	テーマ	概要
PART7 2017年3月4日（土）	三木保（東京医科大学医学部 医療の質・安全管理学分野 脳神経外科学分野 副院長）	「安心して病院にかかって頂くために」 ～患者さんと作る安心して安全な医療～	<p>私たちが知ることができない病院の内部のことや病院が安全な医療を提供するにはどんなことに注意して、どんなことに取り組んでいるのかについて率直にお話しいただきました。参加者の皆さんは、病院の主体的な取り組みがあってこそ安心して受診できることにつながり、医療提供側と患者側の信頼関係を作ることが大切であることを痛感したようです。（久保園）</p>   
PART 8 2017年6月10日（土）	新井田純坪（調剤薬局の薬剤師） 鈴木信行（患医ねっと代表 当法人正会員）	「薬剤師さんの仕事は何？」 「薬を飲むときは、気をつけることは？」 「お薬手帳を上手に活用するには？」	<p>薬剤師の新井田純坪氏は、かかりつけ薬局として、信頼できる薬剤師さんを見つける、そして相談することで、患者が病気と闘うときに力強い味方になってくれると力説。鈴木信行氏は、自身の闘病の中で、「お薬手帳」に自分の病気の状況や医師の処方についても書き込み、自分の治療と向き合うために活用していると話してくださいました。単に「お薬手帳」は記録だけではなく、自身の生きる道筋そのものであると。また、私たちが対峙する医療は、「患者協働の医療」であり、自分が受けたい医療はどんな医療なのか、自身で答えられるようになることが重要と。参加者は、薬、薬剤師、お薬手帳について、知らないことも多く、色々な方々と意見交換できてとても勉強になったとのことでした。（久保園）</p>   

## 平成28年度行われたサイエンスカフェ

	テーマや内容	概要
<p>15回「からだところのサイエンスカフェ」 2016年11月30日 (水) 根津みのりカフェにて</p>	<p>テーマ：「人は森とどう関わってきたのか—生物多様性からみた森と人の歴史—」                  スピーカー：津田吉晃さん（筑波大学菅平高原実験センター 生命環境系 准教授）                  スピーカーからのコメント：古くは森は狩猟の場であり、薪、木材を得るための人の生活と密接した場でした。                  現代では森はトレイルランニング、スキー、スノーボードのようなスポーツからピクニック、散策、読書などを含めて様々なアウトドア活動の場面で私達の生活を心身ともに豊かにしてくれる場所でもあります。                  一方で現在、森には地球温暖化、人間活動に関連した多くの問題もあります。                  今回はそんな森の歴史について第四紀（約258万年前）から現在、そして将来まで、人間活動も軸に考えたいと思います。</p>	<p>人体や病気をテーマとする、いつものサイエンスカフェとは趣向を変えて、今回は森と人間の話を筑波大学菅平高原実験センターの津田吉晃さんにお話しいただきました。津田さんの専門である集団遺伝学の説明のほか、人間が森とどのように付き合ってきたかという文化的なお話も。緑がいっぱいのスライド、津田さん作曲のギター演奏で癒やしの時間にもなりました。懇親会にも多くの方が参加していただき、楽しい交流が続きました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;">    </div>

平成28年度行われた講演会など

講演名	テーマや内容	概要
<p>発見塾設立10周年記念シンポジウム 2016年9月19日 (敬老の日) 豊洲シビックセンターホールにて</p>	<p>・講演 「ことば」って大事だね コミュニケーションの大切さを知る 岩本裕氏 (NHKラジオセンター、 チーフ・プロデューサー) ・「K&amp;Yクールズ」による絵本ライブ ・岩本さんにいろいろ聞いてみよう!</p>	<p>坂本理事長による発見塾の10年間の活動紹介の後、NHKの岩本裕さんに報道現場で伝えたいことを正しく伝えるための苦労、『週刊こどもニュース』の番組作りのポイントなどを話していただきました。K&amp;Yクールズによる絵本の読み聞かせライブもあり、言葉や「伝える」ことを考える1日になりました。(小島)</p> 
<p>全国患者図書サービス連絡会講演会 2017年2月4日 東邦大学医学部2号館にて</p>	<p>講師 鈴木誠二 (当法人理事) 『発見塾』の活動が気づかせてくれた言葉と絵と音楽の力</p>	<p>患者図書によさやそれが広がらない理由から始まり、発見塾の活動の1つの小中学生を対象とした出前授業(いのちの授業)の紹介を通して、大事なことは「何を伝えるか」ではなく、「何が伝わったか」であり、その際に重要なのは「感動」と「驚き」と「納得」であると話が続きました。参加者からは、視点の違う角度からの切り口に気づきも多く、今後に活かせるヒントをたくさんもらったと好評でした。(久保園)</p> 